

「断食論争」

§ 048 マコ 2 : 18~22、マタ 9 : 14~17、ルカ 5 : 33~39

1. はじめに

(1) メシア運動を吟味する3つの段階

- ① 観察
- ② 審問
- ③ 決定

(2) 前回の「罪を赦す権威」の箇所を境に、審問の段階に入る。

- ① この時期、イエスは公生涯の重要な時期に入っていた。
- ② パリサイ人たちとの論争が始まる。
- ③ テーマは、口伝律法に関するものである。
- ④ パリサイのユダヤ教は、口伝律法に聖書と同等か、それ以上の権威を認めた。
- ⑤ 口伝律法は、人々の生活を束縛していた。

(例話) 感謝祭(11月第4木曜日)での食前の祈り

(3) A. T. ロバートソンの調和表

イエスは、3つのたとえ話を用いて、弟子たちを弁護する。(§ 48)

マコ 2 : 18~22、マタ 9 : 14~17、ルカ 5 : 33~39

2. アウトライン (ルカ 5 : 33~39)

(1) 断食に関する質問

- ① 誰が質問をしたのか (Who)。
- ② 断食とは何か (What)。
- ③ なぜ質問をしたのか (Why)。

(2) 4つのたとえ話による回答

- ① 花婿の友人のたとえ
- ② 新しい着物と古い着物のたとえ
- ③ ぶどう酒と皮袋のたとえ
- ④ 古いぶどう酒のたとえ

3. メッセージのゴール

(1) 新約とパリサイ的ユダヤ教の関係

- (2) クリスチャンの特権
- (3) ロマ書7章と8章

このメッセージは、クリスチャン生活の特権について学ぼうとするものである。

## I. 断食に関する質問

### 1. 誰が質問をしたのか (Who)。

「彼らはイエスに言った。『ヨハネの弟子たちは、よく断食をしており、祈りもしています。また、パリサイ人の弟子たちも同じなのに、あなたの弟子たちは食べたり飲んだりしています』(33節)

(1) 恐らくマタイが、ユダヤ教が教える断食日に宴会を開いたのであろう。

- ①イエスとその弟子たちが招かれた。
- ②非常に楽しい雰囲気での宴会であった。

(2) マコ2:18

「ヨハネの弟子たちとパリサイ人たちは断食をしていた。そして、イエスのもとに来て言った。『ヨハネの弟子たちやパリサイ人の弟子たちは断食するのに、あなたの弟子たちはなぜ断食しないのですか』

- ①審問の段階に入っている。
- ②質問したのは、ヨハネの弟子たちとパリサイ人たち。
- ③両者はともに、古い時代に属していた。

### 2. 断食とは何か (What)。

(1) 旧約聖書が命じる断食の日は、たった1日である。

- ①贖罪の日だけである。

(2) 捕囚期以降、自発的に4回の断食が加わる。

- ①ゼカ8:19

「万軍の【主】はこう仰せられる。『第四の月の断食、第五の月の断食、第七の月の断食、第十の月の断食は、ユダの家にとっては、楽しみとなり、喜びとなり、うれしい例祭となる。だから、真実と平和を愛せよ』

- ②【主】は、断食をするかどうかにかかわらずおられない。
- ③メシア的王国の約束を信じて、真実と平和を求めよという命令が下った。

(3) イエス時代になると、パリサイ人たちは、週に2回断食をした。

- ①水さえ飲まない断食である。
- ②月曜と木曜に断食をした。
- ③師は、弟子たちの行動に責任を持つ。

### 3. なぜ質問をしたのか (Why)。

はじめに

- ①紀元1Cのユダヤ教では、口伝律法が聖書以上に権威を持つようになっていた。
- ②イエスとパリサイ人の論争は、この口伝律法に関するものである。
- ③パリサイ人たちは、イエスもまた口伝律法に従うことを期待した。

#### (1) ソフリム学派 (前450年～前30年)

- ①捕囚から帰還した時期の律法学者エズラの活躍
  - \*彼がソフリム学派を設立した。
  - \*ソフリムとは、書記(律法学者)のことである。
  - \*目的は、モーセの律法を教え、再び捕囚が起こらないようにするため。
- ②モーセの律法は、613の命令から成る。
  - \*その周りに「垣根」を作れば、民は律法違反の罪を犯すことがなくなる。
  - \*その「垣根」が、ラビ的律法である。
  - \*過半数が賛成した時に、それは、全世界のユダヤ人が守るべき律法となる。
- ③「子やぎを、その母親の乳で煮てはならない」(出23:19、34:26、申14:21)
  - \*カナン人たちは、初子のやぎを母の乳で煮て、バアルに捧げていた。
  - \*この命令は、カナン人の偶像礼拝からイスラエルの民を守るものとなった。
  - \*前1400年ごろの律法の目的が、前400年ごろには忘れ去られていた。
  - \*その結果、肉と乳製品を分けて食べるべきだという律法ができた。
  - \*これが、今日の食物規定(コシェル規定)の中心である。

#### (2) タナイム学派 (前30年～220年)

- ①第2の学派である。
  - \*タナイムとは、教師のことである。
- ②彼らは、ソフリム学派の律法を、聖書と同等か、それ以上のものと見なした。
- ③220年までは、すべてが口伝律法であった。
- ④彼らは、神はモーセに2種類の律法を与えたと教えた。
  - \*成文法(613の律法)
  - \*口伝律法
- ⑤今日のユダヤ教も、この考え方を踏襲している。

- ⑥口伝律法を暗記している人たちを、律法学者という。
  - \*イエスの時代、口伝律法は完成途上にあった。
  - \*メシアは、口伝律法に従うはずだという期待があった。
  - \*しかしイエスは、一貫して口伝律法に反対した。
  - \*バプテスマのヨハネの弟子たちは、口伝律法の断食の教えに従っていた。
- ⑦紀元300年ごろに、ユダ・ハナシの命令によって、口伝律法が文字化された。
  - \*約650年にわたるラビ的律法が、成文法となった。
- ⑧ソフリム学派とタナイルム学派の口伝律法をミシュナという。
  - \*ミシュナは、ヘブル語で約1500ページである。

(3) アモライム学派(紀元220年～500年)

- ①アモライムとは、アラム語で教師という意味である。
- ②アモライム学派は、ゲマラという注解書を残した。
  - \*ゲマラは、百科事典のブリタニカほどのサイズがある。
- ③タルムード
  - \*ミシュナ+ゲマラ=タルムード
  - \*口伝律法、パリサイ的律法=ミシュナ

## II. 4つのたとえ話による回答

### 1. 花婿の友人のたとえ

「イエスは彼らに言われた。『花婿がいっしょにいるのに、花婿につき添う友だちに断食させることが、あなたがたにできますか。しかし、やがてその時が来て、花婿が取り去られたら、その日には彼らは断食します』(34～35節)

(1) 結婚式に行くのは、ごちそうに与るためであって、断食するためではない。

- ①ユダヤの婚礼は、7日間続いた。
- ②その間、断食、喪に服す行為、重労働などは禁じられた。

(2) しかし、イエスが去ってからは、彼らは断食するようになる。

- ①十字架の預言がここにある。

### 2. 新しい着物と古い着物のたとえ

「イエスはまた一つのたとえを彼らに話された。『だれも、新しい着物から布切れを引き裂いて、古い着物に継ぎをするようなことはしません。そんなことをすれば、その新しい着物を裂くことになるし、また新しいのを引き裂いた継ぎ切れも、古い物には合わないのです』(36節)

(1) 新しい布切れは、洗うと縮む。

①新しい布切れを古い着物に縫い付けることはしない。

②それをすると、新しい着物も、古い着物も、ともにだめになる。

### 3. ぶどう酒と皮袋のたとえ

「また、だれも新しいぶどう酒を古い皮袋に入れるようなことはしません。そんなことをすれば、新しいぶどう酒は皮袋を張り裂き、ぶどう酒は流れ出て、皮袋もだめになってしまいます。新しいぶどう酒は新しい皮袋に入れなければなりません」(37～38節)

(1) 当時は、ぶどう酒は皮袋に入れて、ロバやラクダに乗せて運んだ。

(2) 古い革袋は、長く使用されて、伸びきっている。

①そこに新しいぶどう酒を入れたなら、発酵力が強いので、皮袋は破裂する。

②新しい革袋の場合は、弾力性に富むので、持ちこたえることができる。

### 4. 古いぶどう酒のたとえ

「また、だれでも古いぶどう酒を飲んでから、新しい物を望みはしません。『古い物は良い』と言うのです」(39節)

(1) ぶどう酒は、古いものほど良い味がある。

①ここでの「古いぶどう酒」は、2つの解釈が可能である。

(2) それは、パリサイ的ユダヤ教のことである。

①パリサイ人たちは、パリサイ的ユダヤ教を好み、イエスの教えを拒否する。

(3) それは、モーセの律法を正しく解釈するユダヤ教のことである。

①その場合は、パリサイ的ユダヤ教が新しいぶどう酒となる。

②イエスがメシアであるという教えは、古いぶどう酒である。

③イエスの弟子たちが味わっているのは、よい味のぶどう酒である。

④その彼らに、新しいぶどう酒(パリサイ的ユダヤ教)を強要すべきではない。

## 結論

### 1. 新約とパリサイ的ユダヤ教の関係

はじめに

①4つのたとえ話は、すべて新約とパリサイ的ユダヤ教の関係を論じたもの。

②両者を合体させたり、調和させたりすることは不可能である。

(1) 花婿とは、イエスのことである。

①メシアが到来した今は、婚礼の時である。

(2) 新約は、新しい着物である。

①これをもって、パリサイ的ユダヤ教の繕いをする事は不可能である。

②新約は、それ全体が新しい着物である。

③イエスの教えは、新しい着物である。

④エレ31:31~37に新約の預言がある。

(3) 新約は、新しいぶどう酒である。

①パリサイ的ユダヤ教は、古いぶどう酒である。

②新約は、パリサイ的ユダヤ教の中には収まり切らない。

(4) 新約は、実は古いぶどう酒でもある。

①イエスは、モーセの律法の正しい解釈を教えるために来られた。

②イエスは、モーセの律法の成就として来られた。

## 2. クリスチャンの責務と特権

(例話) Dr. John Mason Good (May 25, 1764 – January 2, 1827)

著名な英国人の学者(薬学、宗教、自然科学) 「The book of nature」

「私は、クリスチャンの義務や教理を守ってきたが、特権に関しては、十分に体験してこなかった」

(1) イエスは、ご自分の働きの期間を、婚礼の期間にたとえたのである。

①最初のしるしは、カナの婚礼で起こった。

②荒野での40日間の断食以外に、イエスが断食をしたという記録はない。

## 3. ロマ書7章と8章

(1) 律法に束縛されたクリスチャン生活(ロマ書7章クリスチャン)

(2) 聖霊に導かれたクリスチャン生活(ロマ書8章クリスチャン)